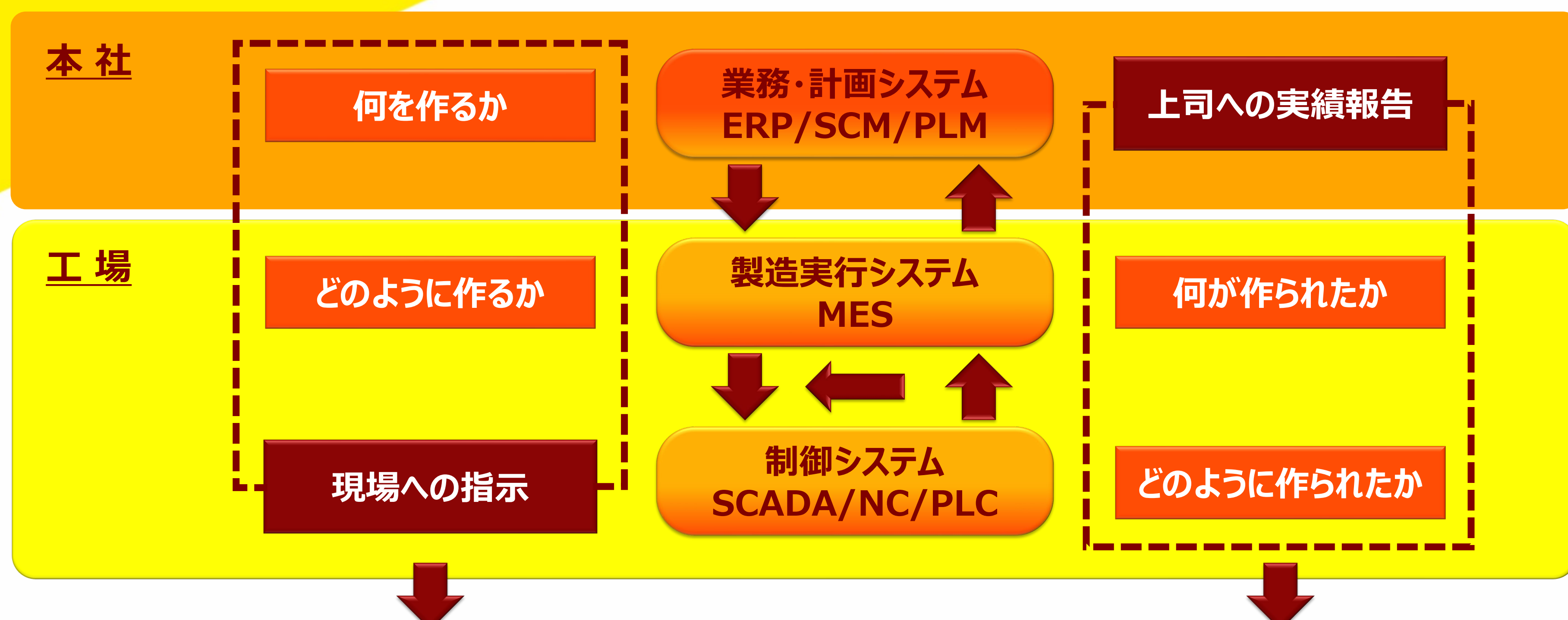


生産現場のデジタルエンジニアリングのためのモデリング

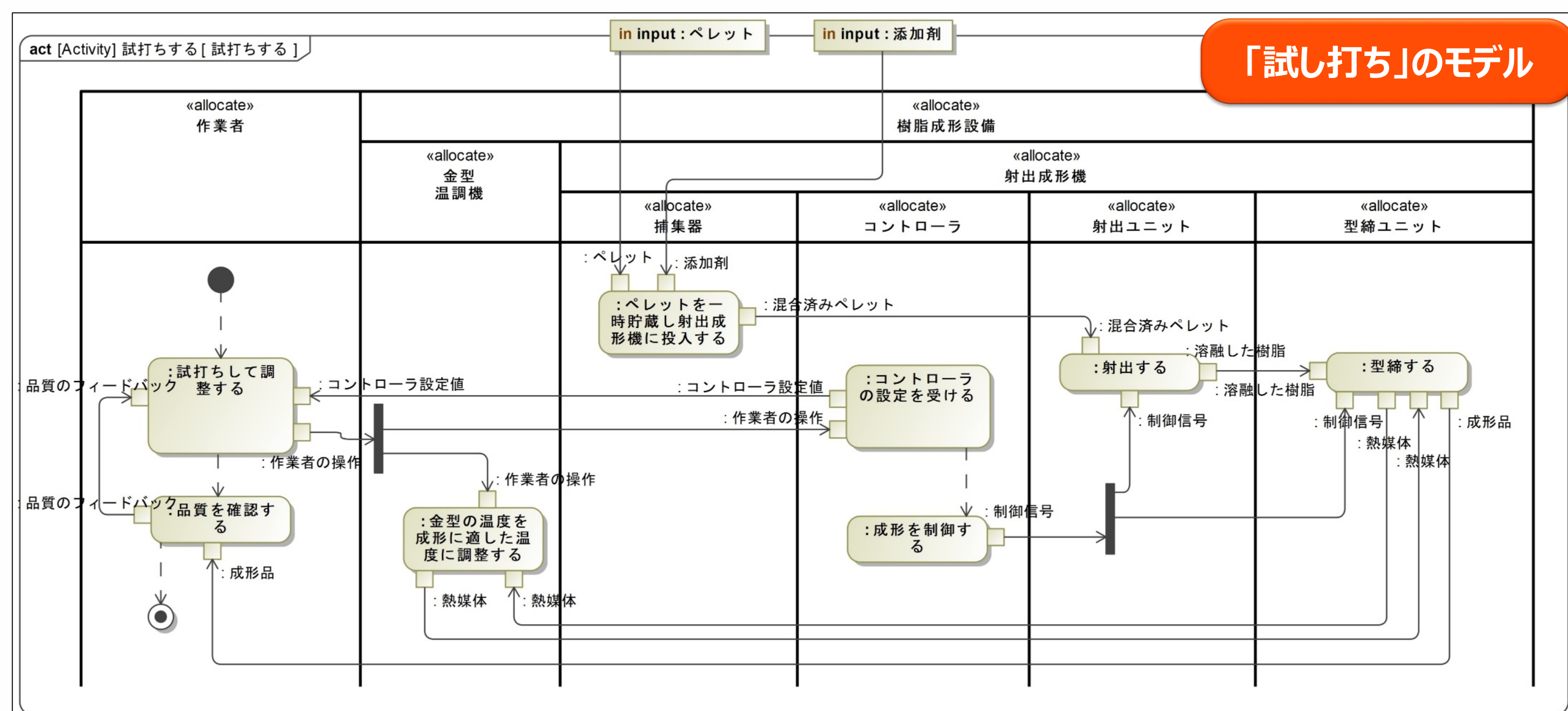


- ✓ プロダクト・プロセス・リソースをもとにスケジューリングする
- ✓ 誰がどのような設備を使って作ったのか？

これらの情報を繋ぐ仕組みが必要。**デジタルエンジニアリングにはモデルが必須**となる。

生産現場のモデル化事例 射出成形工場

■ 成形工場の作業工程



- 生産現場で行われる製造：
- ◆ 不確かな要素が極めて多く、調整に熟練を要する。
 - ◆ コスト低減、生産性と加価値の向上を目指すものの、まだまだ「ムダ」が多い。
 - ◆ 複合的な要因によって発生する不良の解決策を導き出すことが難しい。
 - ◆ 多発する設備の組み換えや割り込み、段取り時間の長さ故、スケジューリングが難しい。
 - ◆ 生産工程の見える化ができていない、やろうとしてもなかなか難しい。
 - ◆ 熟練した技術者の経験や勘によって、原因療法ではなく対症療法で問題を解決している。

これらの課題の解決アプローチ： ★ 関係者間で意思疎通をするための“**共通言語**”が必要。

「**生産現場のモデル**」が、異なる立場の複数の人が議論するための“**共通言語**”となり、

製造業界に**デジタルエンジニアリングの変革をもたらす基盤**となる。